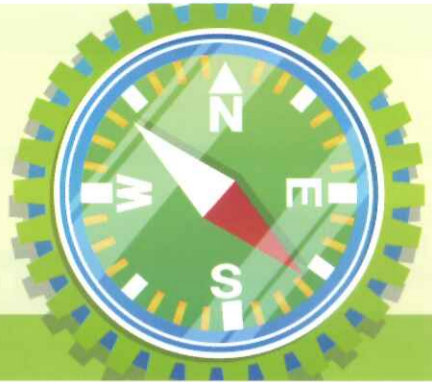


COMPASS 2023 March

学生支援事業通信 コンパス



学校法人
産業医科大学

〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
TEL/093-603-1611(代表)



ご挨拶

事業代表 学長 尾辻 豊

学生支援事業「新しい学生支援+α」は令和2年4月からスタートし、令和5年3月をもって3年間の予定を完了いたします。本事業は、大学の講義室や実験室では得られない能力を学生に涵養する人材育成事業です。「仕事力+α」「人間力+α」「発信力+α」の3本柱から構成されています。卒業後、立派な医師として活躍するのに役立つ基礎的な能力を身につける取り組みです。

COVID-19の感染防止対策を講じながら、可能な範囲で実施してきました。学生は少人数のグループに分かれて産業医経験教員と対面で懇談会をいたしました。第34回産業医学推進研究会にオンラインで参加しました。一日産業医密着体験、産業医との合同会社のオフィス訪問、アクティブラーニングの実践(若者人権講座)などを行い、学生から好評でした。

医師が向き合っているのは「病気」ではなく「人」です。新しい知識や医療技術を活用するのは大切ですが、データや画像だけを見て、患者を診ないという態度は本末転倒です。医師に欠かせないのは、生命の尊厳や人を大切にしている倫理観、他人への思いやり、「コミュニケーション」能力です。これらは、病気の勉強だけをしていても身に付きません。本事業を通じて、様々な人と接して、人の多様性を理解し許容する寛容さを身につけること、自分の考えを相手に的確に伝える能力を磨くことが大切だと考えています。本事業を支援してくださった卒業生や教職員の皆様、厚く御礼申し上げます。



3年間の「新しい学生支援+α」を終えるにあたり

医学部長 酒井 昭典

「新しい学生支援+α」の最終3年目を迎えることをお祝い申し上げます。このプログラムは、「優れた産業医の養成のために学生を支援する」と換言できる活動であり、正に本学の使命です。大学でも支援のための改革を続けています。一つは「キャリア形成プログラム」をスタートし、本学卒業生のキャリアパスを「見える化」しました。これまでも産業医義務を修了後には専属産業医や臨床専門医・研究者・開業医・行政機関医師・健診機関医師を含め、医師としてのあらゆる職種に就くことが可能でしたが、それを明示しました。学生1人1人が医師としてのライフプランを考えやすくなったと思います。このプログラムに伴い「キャリア形成奨学金制度」も整備しました。これは、提携銀行と大学が学生を支援し、修学資金貸与以外の自己支払い分1130万円を在学中は実質無利子で貸し出す制度です。6年間の在学中の自己支払いが実質ゼロで卒業できます。二つ目は、本学学生の周囲にいる医師は、産業医経験はあっても学生の目の前では通常の臨床・教育・研究をしており、産業医の実像が見えにくくなっています。すなわち「産業医を知らない人(II学生)」に産業医の魅力・実像を解りやすく提示する機会が少ないです。このために魅力・実像を伝える事例集を作りました。「産業医経験があったために重症呼吸不全例が携帯していた safety data sheet の情報からメトヘモグロビン血症を早期診断し、救命した事例」、「職場で低血糖発作を繰り返すが、前兆がないために予防が困難だった職員に、産業医が周囲から「アイツは突然性格が変わる」を聞き取り、性格変化II軽度の低血糖を突き止め、周囲から「性格変わったぞ、低血糖ではないか」と注意することで重症低血糖を予防できた事例」等々、産業医が大きな役割を社会で果たしていることが解る事例集です。学生の皆さんが産業医を経験し、優れた医師として成長されることを願っています。

学生支援プログラムは、文部科学省から選定された「大学と企業の連携で育成する統合学生支援」プログラム(平成20年~23年度)に始まり、優れた「将来の産業医」養成のため、継続的にプログラムの見直しを図りながら実施してきました。平成29年度~令和元年度は、『新しい学生支援+3つの+ (プラス) プラン』を実施し、令和2年度からは、「新しい学生支援+α」が始まり、今年度終了します。

そして、令和5年度からは、学生の将来のキャリアを見据えた学生支援「将来のキャリア形成学生支援」として、以前まで実施してきた3つのプランに人生プランを見据えた更なる充実を図りました。

令和5年度より

学生支援事業 「将来のキャリア形成学生支援(3つのキャリアプラン)」がスタートします

I 仕事力×キャリア・オリエンテーション

- ◆どのような人々(労働者)がどのような環境で仕事をしているのか、現場を知る(現場力)
- ◆労働者の健康管理を行う上で今何が課題となっているのか、課題を明らかにする力を養う(課題探索力)
- ◆社会人として求められるものを身につける(社会人基礎力)

II 人間力×キャリア・ベーシック

- ◆将来、チームで働くためのコミュニケーション能力を身につける(コミュニケーション力)
- ◆学生としての健全な生活習慣を身につける(持続力)
- ◆メンタルヘルス対策として学生支援体制を強化する(学生支援力)

「将来のキャリア形成学生支援(3つのキャリアプラン)」概念図



III 発信力×キャリア・コミュニケーション

- ◆何事にも当事者意識を持ち、主体的な行動ができる(行動力)
- ◆対外的な場で情報や人との繋がりを得ることができる(対人関係力)
- ◆自分の考えを適切に相手に伝える力を磨く(自己表現力)
- ◆情報を収集する力を養う(情報収集力)

評価委員会を開催しました。

学生支援事業「新しい学生支援+α」の最終年度にあたり、これまでの3年間の取組について評価をいただくため、図書館視聴覚室にて評価委員会を開催しました。

学生支援事業責任者である佐藤学生部長から3年間の活動報告及び令和5年度以降の学生支援事業「将来のキャリア形成学生支援」について報告がありました。



日時/令和5年3月14日(火) 18:00~18:50
場所/大学2号館1階 視聴覚室(2102室)

- ◆評価委員長 森本 景之(第2解剖学 教授)
- ◆評価委員 江口 尚(産業精神保健学 教授)
村上 修一(産業医科大学後援会 会長)
顧 佩靈(九州大学 キャンパスライフ健康支援センター)
市成 健太郎(学生会 会長)
- ◆事業責任者 佐藤 寛晃(学生部長)

評価結果

評価委員からは、この3年間、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制限されたことを踏まえた意見・感想等が多数出た。

- ・学生同士(先輩・後輩)の交流が少なかったため関係性が希薄で、イベントの企画者と参加する学生との熱意に相違があるのを感じている。
- ・教員と学生の思いに乖離があるように感じるので、学生を企画立案に参加させるのはいかがか。
- ・今後Zoomを利用した交流があってもいいのではないか。

等のコメントをいただきました。



評価委員長から、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が難しかったプログラムも多かったが、逆に、感染症対策を通して行えた学生支援もあったと思うとの発言があり、最後に事業責任者の学生部長から、今後制限が緩和され、交流も可能になると思うので、状況を見ながら、プログラムをブラッシュアップし、実施していきたいとの発言があった。

採点結果

評価項目	評価平均
1. 本取組の趣旨・目的について	3.6
2. 本取組の独自性について	3.6
3. 本取組の有効性・効果について	4
4. 本取組の改善・評価について	3.6
5. 本取組の実施計画・将来について	4.2
6. 本取組の発展について	4.2
7. 総合評価	4

5: 高く評価できる 4: 十分評価できる
3: 評価できる 2: やや不十分である
1: 不十分である 0: 評価できない

I 仕事力+α

一日産業医密着体験

日時	訪問先	参加者
令和4年8月3日(水)	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 鹿児島テクノロジーセンター(鹿児島県)	2名
令和4年8月9日(火)	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 長崎テクノロジーセンター(長崎県)	2名
令和4年8月25日(木)	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 熊本テクノロジーセンター(熊本県)	2名

1 年次生6名が2名1組となって3つの企業を訪問し、自らの産業医像の構築に役立てることを目的とした「一日産業医密着体験」を実施しました。訪問先では産業医として働く先生に一日密着し、職場巡視や面談の見学等を行い産業医への理解を深めるよい機会となりました。

参加した学生の感想

- ・自分と同じ女性の先生であったため、自らの将来像をより描きやすくなった。実際に働いている産業医のスケジュールを見せていただいたが、やりがいのある仕事であると感じた。
- ・事前に考えていた、産業医のイメージをより具体的なものにすると目的は果たせたと思います。実際に産業医の仕事を生で見て感じたことは、職員の方一人一人にかなり気を使われているということです。それぞれの持病や精神状態を考慮して、勤務形態を考えていたところが印象的でした。
- ・付加価値を専属産業医は企業に提供していたことを知ることができた。特に、点として個別の問題に対応するだけでなく、線として捉えることで当事者と組織全体の課題解決につなげる意識を持たれていて、社内研修などの啓発活動に積極的に取り組んでいることが印象的であった。(中略)今後の学習においては、企業に付加価値をもたらすという視点を意識して取り組んでいきたい。



マナー講座



日時/令和4年7月20日(水) 14:50~15:50
場所/大学本館2号館3階 2305講義室
参加者/1年次生 103名

7 月20日(水)に医学部新入生を対象にマナー講座を開催しました。

講師にオフィス荒武代表 荒武 勢津子先生をお招きし、感染対策を取りながら身だしなみや言葉遣い、お辞儀の仕方等企业訪問や学会へ出席の際のビジネスマナーをご指導していただきました。

産業医・産業医経験教員との合宿

日時/令和4年9月23日(金)~24日(土)
場所/ホテルクラウンパレス北九州
(北九州市八幡西区東曲里町3-1)
参加者/1年次生 29名



スケジュール

23日(金)	17:10	ラウンドテーブルディスカッションII テーマ: 将来の産業医像について
13:00	18:00	夕食
13:30	19:00	意見交換会
14:00	20:00	各自部屋で過ごす
14:30	24日(土)	
15:00	6:30	朝食
15:30	8:30	まとめ・今後の展望 一瀬進路指導副部長
16:00		閉会挨拶 一瀬進路指導副部長・佐藤学生部長
16:15	9:30	ホテルクラウンパレス北九州出発
16:55	10:00	大学到着・解散

9 月23日から24日に産業医・産業医経験教員との合宿をホテルクラウンパレス北九州にて実施しました。

卒業生産業医2名の講演を聞き、産業医像についてラウンドテーブルディスカッションでグループに分かれ、意見をまとめ、発表したり、夕食後に4名の先生方(卒業生産業医2名、佐藤学生部長、一瀬進路指導副部長)とテーブルを囲み質問や意見交換が活発に行われました。



卒業生産業医

- ・國本 政瑞沖 先生(國本衛生コンサルタント事務所代表)
- ・清本 芳史 先生(株式会社リコー プロフェッショナルサービス部 人事総務センター総務サポート室 統括産業医)

参加した学生の感想

・今まではネットやオープンキャンパス等の情報のみで、一般的な「産業医とはどのようなことをしているのか」ということなどを中心に知っていたが、具体的な産業医の生活については、知っていたつもりでも実際知らなかったことが多くあったので、新鮮だった。

・産業医について考えるだけでなく、新しく話したりできた人もいた。産業医合宿を通して、新しく友達ができ、人脈が広がったことは非常に良いことだと感じた。このように、今回の産業医合宿は大きな実りあるものであったと思う。
・1年のうちから意見交換したり、情報を得ることによって自らの進路をじっくり考える時間を設けることができた。様々な意味で満足度が非常に高い合宿だった。

産業医オフィス訪問

12 月6日(火)及び2月10日(金)に、卒業生が産業医として勤務している企業のオフィスを見学する「産業医オフィス訪問」を実施しました。

今年度は、昨年に続き久留米市のダイハツグループ九州開発センター、また、3年ぶりに福岡市の三菱電機株式会社パワーデバイス製作所を訪問しました。

産業医の業務や工場見学をし、産業医としての働き方がイメージできる貴重な体験となりました。



参加した学生の感想

・印象的だったことは、お金をかけすぎずに工夫を凝らして安全対策を行っていたことである。資金を使わずにできる限りの安全対策を進めていくことを考えるのも産業医にとって必要な力なのではないかと感じた。

・職場特有の産業医の働き方を知ることができ、非常に良い経験となった。
・職場の様々な場所で、様々な工夫がなされており、取り組みの本気さを感じた。
・社会の変化に伴う対応の難しさや産業医の必要性をさらにアピールする必要があることなど様々な課題も意識することができた。

学生による臨床・シミュレーション・ラボ活用術

場所/病院南別館4階B室

日時	参加者
令和5年2月3日(金) 13:40~14:40(静脈採血)	1年次生 12名
令和5年2月17日(金) 13:40~14:40(静脈路確保)	1年次生 11名、2年次生1名 12名
令和5年2月24日(金) 13:40~14:40(気管内挿管)	1年次生 10名

2 月3日(金)静脈採血、2月17日(金)静脈路確保、2月24日(金)気管内挿管を3回に分けて、医学教育担当教員山本先生にご指導していただきました。

臨床実習用モデルの人形を相手に、熱心に何度も練習をしていました。学生にとって、大変有意義な講座となり、卒業後も今回の経験が生かされることと思います。

参加した学生の感想

- ・医学生としてのモチベーションを高めることができた。
- ・自分が医師として働くイメージがより強く想像でき、とても楽しかった。
- ・1年生の段階で手技を体験することができたので、勉強に対する意欲が湧いた。



II 人間力+α



日時/令和4年6月20日～7月4日(全10回)12:50～13:20
 場所/大学本館1号館 1401会議室、
 1848B会議室、ラマツイーニホール 第1会議室
 参加者/1年次生 105名

6月20日(月)～7月4日(月)の期間に10回に分けて「医学部1年次生と教員、産業医経験教員との談話会」を実施しました。産業医経験のある先生方から産業医の仕事についての貴重なお話と、1年次生からの質問にも丁寧にお答えいただき、大変参考になったと思います。ご協力いただいた先生方、どうもありがとうございました。

参加した学生の感想

- ・それぞれ質問に答えてくださって、非常に勉強になった。実際にお会いする機会が初めてだったので面白かった。
- ・産業医科大学ならではの体験ができて、産業医科大学の魅力を感じることができました。
- ・将来の選択として、医師としてどう働くかを真剣に考えようと思います。

医学部1年次生と教員、産業医経験教員との談話会

日程	1年次生	参加教員
第1回 6月20日	11名	第1生理学 丸山 崇 学生部長 佐藤 寛晃
第2回 6月22日	11名	環境疫学 石丸 知宏 医学部長 酒井 昭典
第3回 6月22日	11名	職業性中毒学 後藤 元秀 保健センター長 川波 祥子
第4回 6月27日	11名	産業保健管理学 永野 千景 学長 尾辻 豊
第5回 6月27日	11名	作業関連疾患予防学 安藤 肇 副学長 上田 陽一
第6回 6月30日	10名	産業保健経営学 小田上 公法 副学長 堀江 正知
第7回 6月30日	10名	環境疫学 大河原 眞 前学生部長 森本 景之
第8回 7月1日	10名	呼吸病態学 友永 泰介 教務部長 齋藤 光正
第9回 7月4日	10名	産業保健経営学 永田 智久 進路指導部長 佐伯 寛
第10回 7月4日	10名	公衆衛生学 村松 圭司 産業生態科学研究所長 上野 晋

学生支援教員研修会 (FD)

日時/令和5年2月1日(水)17:30～18:30 オンライン開催
 参加者/教職員 72名

2月1日(水)に教職員を対象とした教員研修会(FD)をオンライン開催しました。北里大学健康管理センター学生相談室講師石塚 昌保先生を講師として「学生との面談における一工夫(ひとくふう)」というテーマでご講演をしていただきました。



北里大学の取り組みなど興味ある内容で、今後の学生指導において大変参考となる講演でした。

参加した教職員の感想

- ・指導学生との面談の際の技術的な助言となった。
- ・特に、発達障害の傾向の学生に対する接し方が参考になった。
- ・先生方とともに成績下位学生への対応に生かしていきたいと思った。

アクティブラーニングの実践(若者人権講座)

日時/令和5年1月17日(火)10:50～12:20
 場所/ラマツイーニホール 小ホール 講師/仲岡しゅん氏(弁護士)
 テーマ/LGBTとジェンダー・セクシュアリティをめぐる人権課題
 参加者/医学部1年次生 100名



1月17日(火)に、大阪弁護士会に所属する弁護士の「仲岡しゅん」氏をお招きし、医学部1年生を対象にアクティブラーニングの実践(若者人権講座)を開催しました。講演のテーマ「LGBTとジェンダー・セクシュアリティをめぐる人権課題」についてご講演いただきました。

参加した学生の感想

- ・LGBTであろうがなかろうが、何も変わらず変に気にしすぎることなく接することが必要だと頭ではわかっていましたが、今回の講演を通して実際に移せると思った。そのくらい貴重で有意義な講演だった。
- ・人は一人一人違う個性をもっているんだ、という認識がもっと一般的になるといいなと思った。個人的には好きな人がいるのか、本当に好きなのか、恋愛感情があるのかわからないということも性の多様性の一部だと言う考え方が良いなと思った。
- ・今まで特に関心を持たずにいた性に関する問題について、実体験を交えた講演によりとても見解が深まりました。この先、医師になってからもその先もこの問題に関して接する場面は多くなると思うので、しっかりと考えていきたいと思っています。

III 発信力+α

図書館の文献検索講習



日時/令和4年5月26日(木)13:40～15:30
 場所/大学6号館2階 コンピュータ実習室
 参加者/1年次生 103名

5月26日(木)に、医学部1年次生を対象に図書館の文献検索講習を開催しました。この企画は図書館の文献検索機能を理解してもらうことにより、自主学習のモチベーションを高めることを目的としています。

参加した学生の感想

- ・短時間では習得できないくらい難しかったです。
- ・レポートを書く際など、役立ちそうな話を聞けてよかった。
- ・GoogleやYahoo!にも検索の仕方がちゃんとあるということを初めて知れた。
- ・いろいろと検索方法があり、情報が多く難しかった。検索を使ったことがないので、使いはじめた頃にまた見返したいと思う。
- ・ぜひ図書館を利用していきたい。

医生祭医療部「健康測定」

日時/令和4年11月1日(火)～3日(木)
 10:00～16:30
 場所/大学3号館1階 学生食堂
 主催/第42回産業医科大学医生祭 医療部

健康測定

11月1日(火)～3日(木)にかけて第42回産業医科大学医生祭「太陽祭」が開催され、医療部企画「健康体力測定」を実施しました。今年は医生祭が3年ぶりに開催され、学生たちは感染防止対策を取りながら、肌年齢測定器、体組成計、骨密度測定器、ロコモティブシンドローム診断、握力測定、血圧測定を来場者の方々に体験してもらい、自分自身の健康について再認識するきっかけができました。

令和4年度「新しい学生支援+α」事業より、機器レンタル料等を助成しました。



図書館所蔵の産業医学関連図書の紹介(ライブラリーカフェ)



6月16日(木)・6月17日(金)に、医学部1年次生を対象に図書館所蔵の産業医学関連図書の紹介(ライブラリーカフェ)を開催しました。

図書館職員から、図書館や産業医学関連図書について説明を聞き、産業医学へのモチベーションを高めるとともに、図書館を有効活用できるようになることを目的としています。

日時/令和4年6月16日(木)・6月17日(金)12:50～13:20
 場所/大学本館2号館1階図書館 視聴覚室 参加者/医学部1年次生 27名

参加した学生の感想

- ・産業医学については漠然とした理解しかなく、具体的に何をするのが、どこから勉強すればいいのかかわからないまま入学しました。今回産業医学関連図書を教えていただいたことで、産業医学の勉強を頑張ろうと思えました。
- ・図書館には産業医学に関する文献がたくさんあることが分かった。興味のかかれた文献が多くあったので、今後読んでみたいと思った。
- ・産業医に必要な情報の探し方や分類別に調べられることが分かって良かった。

第49回産業医学推進研究会九州地方会

日時/令和4年10月8日(土)13:30~17:30
場所/ラマツイーニホール 大ホール 参加者/1年次生 25名

10月8日(土)に、産業医学推進研究会九州地方会様のご協力により、医学部1年次生25名が、第49回産業医学推進研究会九州地方会に参加しました。今年度は産業医科大学学会と産業医学推進研究会九州地方会との共同開催となり、1年次生にとって初めての学会参加で、大変貴重な経験となりました。特に、今回のテーマであった「ダイバーシティ」について理解を深めることができましたようです。



参加した学生の感想

まず、プログラム表を見て大変驚いた。無論我々1年生の為に教鞭をとっておられる教授の方々もいらっしやが、弊学の生徒の名が複数あったからだ。学生も産業医学に参加しているし、それを求められている事をひしひしと感じた瞬間であった。様々な方々からの講演を拝聴する中で、凡そほとんどに共通してあったのは「現状に満足せずに常に進み続けよ」という我々学生への大いなるメッセージであった。職務を遂行する上での実情や、学生時代の取り組みや思考・当時の興味や描いていた進路など、多方面から多角的な視点で興味深い話を聞くことができた。スライドも発表内容も専門的過ぎず、学生の視点からでも聞きやすいような作りになっており、これからスライドを作る機会も増えてくるであろう我々にとって非常に参考になるものだったと思

う。本講演から得るべきものは数多く、大変有意義な時間であったと感じた。
この研究会に参加させて頂く前は産業医学と臨床医学を分けて考えていたが、先生方の話を聞き産業医学は他の学問に密接に関わっており、産業医学以外の自己の興味のある分野を掘り下げること、その経験が産業医を含めたキャリアダイバーシティに繋がっていくことを学ぶことができた。常に自己成長し続ける人間であるために大学での学びを大切にしながら、Learning Agilityを意識して様々なことに挑戦していきたいと感じた。
キャリア形成においては偶発的なものもあり、若い頃に思い描いたキャリアとは異なることもあると思うことができるようになると感じた。したがってキャリア形成において重要なポイントは、柔軟性を持つことだと感じた。

1 シンポジウム(産業医科大学学会・産推研九州地方会共同開催) プログラム

テーマ「産業医大ダイバーシティ～キャリア形成を考える～」

シンポジスト:

1. 保健師からのキャリアチェンジした経験から
トヨタ自動車株式会社 人事部T-CaRS 主任 長嶺 紘子先生
2. キャリア×ダイバーシティ～EHSスタッフの事例～
武田薬品工業株式会社 光工場
総務管理部 EHS室 山口 健一先生
3. 産業保健をもって産婦人科を修める
産業医科大学 産科婦人科学 助教 金城 泰幸先生
4. 好きこそ物の上手なれ～随処作主立処皆真～
UBE株式会社 人事部健康推進センター
統括産業医 塩田 直樹先生
5. マクロ的に捉えた卒業生のキャリアと大学の役割
産業医科大学 進路指導部 副部長 一瀬 豊日先生

2 特別講演(産業医科大学学会主催)

演題「国際共同研究のすすめ」

演者:高橋 謙先生(産業医科大学名誉教授 国際化推進アドバイザー)

第34回産業医学推進研究会 全国大会

日時/令和4年11月19日(土)13:00~18:00 オンライン開催
参加者/1年次生 21名

11月19日(土)にWeb配信された第34回産業医学推進研究会全国大会に、医学部1年次生21名がオンライン参加しました。今回のテーマである「オーセンティック」についてが印象深かったようで、さらに産業医の在り方等について考えを深め、先輩方の活動を知る貴重な機会と体験となりました。



参加した学生の感想

産業医の先生方や看護師さん方は自分の仕事に自信を持って活き活きしているように見えた。オーセンティックというテーマからも、現代の産業医の自分らしさ、自由さを感じ取ることができた。また、本学の縦のつながりの強さを実感した。

オーセンティックについて、単なる感情論で完結するのではなく講師の方の職務に基づいた経験を中心に語ってくれた事で、産業医に対する主体的なイメージを固めることができた。
産業医の仕事はこれからの日本にとっても大きな影響を与えるということを再確認することが出来た。

テーマ:オーセンティック～ありのままの産業保健～ プログラム

第1部 特別講演「オーセンティック」

演者/中竹 竜二氏(株式会社チームボックス 代表取締役)

第2部 シンポジウム「たまにきた産推研は」

司会/河下 太志(医18,アビームコンサルティング株式会社)

演者/松尾 知子(産・看5,アマノ株式会社)

出光 恵美子(産・看1,日本製鉄株式会社)

後藤 さよ子(医18,三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社)

山尾 哲司(産・環12,日本製鉄株式会社)

第3部 シンポジウム「私たちのオーセンティック」

司会/小笠原隆将(医27,三菱ふそうトラック・バス株式会社)

演者/今田玲奈(産・看1,Wholwell 合同会社)

征矢 敦至(医17,株式会社プロソフィパートナーズ)

戸津崎 貴文(医17,PwC Japan 合同会社)

増田 将史(医18,イオン株式会社)

アリスの会 四季の集い・冬 北九州

日時/令和5年1月12日(水)18:00~20:00
テーマ/卒後30年たった2人のそれぞれのキャリア
～あつという間の30年。色々あってもたくましくしなやかに～
参加者/医学部1年次生2名、2年次生2名、3年次生6名、5年次生1名

1月12日(木)に、医学部の学生11名が「アリスの会 四季の集い・冬 北九州」に参加しました。

「アリスの会」とは、2001年に産業医科大学医学部女性卒業生の会として発足した、女性卒業生の活躍を応援する会です。

九州電力株式会社統括産業医 吉川里江先生、合同会社ミーシャ代表社員 小畑泰子先生が、「卒後30年たった2人のそれぞれのキャリア～あつという間の30年。色々あってもたくましくしなやかに～」をテーマにご講演されました。講演後には、先生方と学生が2グループに分かれて、談話会が行われました。



参加した学生の感想

色々な生き方があることを知れたので、これからの将来に希望がもてました。何事も諦めなければ何とかなるんだな、もうちょっと楽に考えてもいいんだなとも思いました。
女性だけの環境で聞きたいことが聞きやすかったです。子供を産みながらうまく医師として働

いている先生方の生き方をされてとても良かったです。
私は将来、絶対に産業医になろうと思っているので、実際に産業医として活躍されている卒業生のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。特に、専属産業医と独立産業医のそれぞれの先生の話聞くことで両者のメリット、デメリットを知ることができたのが良かったです。

編集後記にかえて

コロナ禍での「新しい学生支援+α」



事業責任者 学生部長 佐藤 寛晃

学生支援プログラム「新しい学生支援+α」は2020年4月折しも新型コロナウイルス感染症による行動制限が始まった時にスタートいたしました。本プログラムでは、学外訪問や学内外者との接触機会が多く、一昨年度、昨年度は大半のプログラムが実施困難な状況でした。今年度は、夏前や秋など比較的感染流行が落ち着いた時期に複数のプログラムを実施できました。9月に実施した「産業医との合宿」では、現役の卒業生産業医から直接話を聞ける機会を設けただけでなく、宿泊して同級生との親睦を深めることができました。1年生の多くは修学旅行や卒業旅行に行くことは出来ず、大

学入学後も行動制限が続き、大学生らしい活動を行えなかったこともあり、楽しそうにプログラムに参加している姿が印象的でした。私としては学生が求める支援のあり方を考え直す機会となりました。
次年度以降は、名前を「キャリア形成学生支援」と変えて、内容をさらに充実させて実施いたします。学生のキャリアパス形成に役立てるだけでなく、学生が楽しく取り組み、大学生時代の思い出に残るような内容にしたいと考えております。引き続き皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。